

令和6年度日本小児外科学会
第5回定例理事会議事録

日 時：令和7年3月18日（火）11：00～17：00

会 場：大阪大学東京オフィス＋WEB

出席者：小野 滋（理事長）、家入里志（副理事長）、浮山越史（理事・会長）、石橋広樹、尾花和子、加治 建、田中秀明、平林 健、瀧本康史、米田光宏（以上理事）、奥山宏臣（監事）、照井慶太（庶務委員長）、田中奈々（庶務委員長）、渡邊佳子（会長付庶務委員）、上原秀一郎（財務会計委員長）、山田洋平（財務会計副委員長）、柴田晶子（以上事務局）

出席者（WEB）：

内田広夫（理事・次期会長）、越永従道（監事）、田尻達郎（前会長）、田中 潔（第40回秋季シンポジウム会長）、大植孝治（第41回秋季シンポジウム会長）、松浦俊治（前会長付庶務委員・専門医認定委員会委員長）、文野誠久（施設認定委員会委員長）

欠 席：石丸哲也（専門制度庶務委員会委員長）

議事案件：

議 事：

1. 第5回定例理事会の議事録署名人は、石橋広樹理事・田中秀明理事とした。
2. 令和6年度第4回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 審議事項

1) 第62回学術集会について（浮山会長）

浮山会長より、資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

- ・第6次会告について報告された。

会 期：2025年6月5日(木)～6月7日(土)

会 場：一橋大学一橋講堂

主 題：天に星、地に花、人に愛～きみの想いを子どもたちのために～

学会HP：<http://jsps62.umin.jp/>

開催形式：現地開催、オンデマンド配信（予定）

- ・疑義のある演題について、研究倫理委員会に審議を依頼したことが報告された。研究倫理委員会は「日本外科学会学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針【令和元年7月9日改訂版】（令和2年5月26日更新・令和6年3月18日更新）」を基準に審査したことが報告され、研究倫理委員会の審議結果が報告された。
- ・タイムテーブルについて報告された。

2) 第63回学術集会について（内田次期会長）

内田次期会長より、資料に基づき進捗状況が報告された。

会 期：2026年6月11日（木）～6月 13日（土）

会 場：名古屋コンベンションホール

主 題：Bright Future for Children

輝く未来へ 小児外科の技術を磨く

同時開催：・WOFAPS regional meeting

・MIS workshop (fee required) （会場：名古屋大学医学部附属病院）

2026 年 5 月 19 日（火）

- ・2026/5/20-23 に EUPSA/IPEG/ESPES が Vienna で開催されることが正式に決定したことを受けて、当初予定していた 2026 年 5 月 21 日(木)～5 月 23 日(土)を変更することが報告された。
- ・AAPS（アジア小児外科学会）は:2026 年 6 月 11 日（木）～6 月 12 日（金）に開催することが報告された。
- ・第3次会告について報告された。
- ・参加費を¥30,000-とすることが承認された。
- ・2016 年に田口 智章先生が会長を務められた第 53 回日本小児外科学会学術集会（JSPS2016）/第 24 回アジア小児外科学会（AAPS2016）の収支報告を確認することになった。

3) 第 40 回秋季シンポジウムについて（田中潔秋季シンポジウム前会長）

田中秋季シンポジウム会長より資料に基づき開催報告がなされた。

- ・第 40 回秋季シンポジウム・PSJM2024 の収支報告がなされた。
- ・剰余金の扱いについて再検討することになった。

日時：令和 6 年 10 月 26 日（土）

会場：一橋講堂

テーマ：少子化時代における小児外科医育成

開催形式：現地開催＋ライブ配信 全会場（発表者・座長は現地）

発表演題：合計 69 題（口演 46 題、ポスター 23 題）

参加者数：656 名

4) 第 41 回秋季シンポジウムについて（大植秋季シンポジウム会長）

大植秋季シンポジウム会長より資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

- ・第3次会告について報告された。
- ・小児内視鏡外科手術セミナーは 10 月 31 日(金) の夕方、全体懇親会の前に開催を予定していることが報告された。
- ・医師の参加費は PSJM+秋季シンポジウム通しで¥18,000-とする予定であることが報告された。

日時：令和 7 年 11 月 1 日（土）

会場：千里ライフサイエンスセンター

テーマ：新生児外科疾患の長期フォローにおける問題点

5) 第 42 回秋季シンポジウムについて (澁本次期秋季シンポジウム会長)

澁本次期秋季シンポジウム会長より、資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

日時：令和 8 年 10 月 31 日 (土)

会場：一橋講堂

テーマ：小児外科領域における最新技術の応用

6) 第 43 回秋季シンポジウムについて (加治次々期秋季シンポジウム会長)

加治次々期秋季シンポジウム会長より、口頭で準備状況が報告された。

- ・会場は久留米シティプラザ、2027 年 10 月 20 日に理事会、10 月 21・22 日に PSJM、10 月 23 日に秋季シンポジウム開催というスケジュールで検討していることが報告された。

日時：令和 9 年 10 月 23 日 (土)

会場：久留米シティプラザ

テーマ：食道閉鎖症 Update

7) 各種委員会報告および審議事項

(1) 庶務委員会 (照井委員長)

照井委員長より、資料に基づき報告された。

2025 年 2 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,646 名 (うち海外 2 名)、評議員 272 名、準会員 28 名、名誉会員 57 名 (うち海外 8 名)、特別会員 65 名 (うち海外 1 名)、賛助会員 1 団体の合計 2,068 名 + 1 団体である。

(2) 財務会計委員会 (上原委員長)

上原委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・昨今の日本小児外科学会学術集会への日本製薬団体連合会寄附金が減少傾向であることが提示され、学会開催援助金 (現在 500 万円) を 800 万まで増額することを検討していることについて審議が求められ、承認された。

(3) 専門医制度委員会 (専門医制度各委員長)

文野施設認定委員会委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・2025 年 1 月 18 日に開催された第 4 回理事会以降は新たな活動はなかったことが報告された。
- ・外科サブスペシャルティ領域連絡協議会が 4 月 22 日に開催予定であることが報告された。
- ・仙台で開催される第 125 回日本外科学会定期学術集会において、「特別企画 2: 若手からみた専門医制度の諸問題」での京都府立医科大学大学院生 (平成 28 年卒) の発表に「協力」の形で本専門医制度委員会の名前を明示することが報告された。

専門医認定委員会について、松浦専門医認定委員会委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・ 11 月 17 日実施された専門医筆記試験の結果について報告された。
- ・ 外科総論 e-learning スライド収録と確認テスト問題の提出を行ったことが報告された。
- ・ 専門医制度規約新旧対照表が示され、承認された。
- ・ 専門医制度 FAQ を作成したことが示され、承認された。

(4) 機関誌委員会 (田中秀明担当理事)

田中担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・ 機関誌委員会開催状況について報告された。
- ・ 第 61 巻 1 号に第 61 回日本小児外科学会学術集会記録が掲載されたことが報告された。
- ・ 浅倉義弘先生の追悼文を和田基先生に執筆していただくことが報告された。
- ・ 松村長生先生の追悼文を江川善康先生に執筆していただくことが報告された。
- ・ 学術著作権協会から、本機関誌の情報の AI 利用に関する著作権管理についても同協会に委託するという、契約の改訂の提案があったことが報告された。今回の契約更新で特に新たに費用が発生するものではなく、内容としても妥当な契約と判断し、契約の更新を行ったことが報告された。
- ・ 2024 年 (第 60 巻) 優秀論文の選考結果について以下の通り報告された。

【原著部門】

「本邦の小児外科専門医の現況」

田村亮、他. (金沢医科大学小児外科)

第 60 巻 7 号 p.969-977 (https://doi.org/10.11164/jjsps.60.7_969)

【症例報告部門】

「腫瘍摘出術前に GnRH 依存性思春期早発症への移行が確定診断された小児精巣 Leydig 細胞腫の 1 例—本邦報告 24 例からみた臨床的特徴—」

久田正昭、他. (琉球大学大学院消化器腫瘍外科学講座)

第 60 巻 2 号 p.172-180 (https://doi.org/10.11164/jjsps.60.2_172)

- ・ 投稿費/無料分を超えたページ数の徴収について、徴収額の減額、または、無料ページ数を増やすことを検討していることが報告され、承認された。ページチャージを半額にし、5 年後に見直しを行うことになった。
- ・ 地方会、研究会抄録は今まで通り有料とすることが確認された。
- ・ 依頼原稿の著者から投稿料・超過料の徴収はしないことの決定を受け、60 巻の 2 名の執筆者への投稿料返却の是非について審議が求められ、承認された。

(5) 国際・広報委員会 (湊本担当理事)

湊本担当理事より、資料に基づき HP の改定状況が報告された。

- ・ 小児救急の病院情報とリクルートの病院情報を一つの日本地図に掲載した場合の案が提示された。費用が抑えられる点は良いが、わかりづらくないかとの指摘があり、小児救急

のバナーをクリックしたときにはリクルートのバナーが非表示となり、リクルートのバナーをクリックしたときには小児救急のバナーが非表示となる仕様にできないかとの意見が寄せられ、確認することになった。

- ・こども家庭庁への要望について、Google フォームで作成することが承認された。
- ・動画の直下に U45WG のバナーを設置することが確認された。
- ・メディカルノートとの契約について学会からのお知らせに掲載することが確認された。
- ・SNS については外科学会に意見をいただくことが確認され、セキュリティについては外科学会に倣うことが確認された。

(6) 保険診療委員会（尾花担当理事）

尾花担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・令和 8 年度用診療報酬改定について要望を提出しており、要望書類の作成を行うこととその担当者が報告された。
- ・外保連から 1) 技術評価の適正化のための手術に関する調査、2) 手術試案医療材料実態調査の依頼があり、対応したことが報告された。
- ・診療報酬改定に向けて「NUSS 法における肋間神経の高周波熱凝固療法について」の要望があり、議論した結果、今後、外保連麻酔委員会の委員長に議題として提示してよいか確認する方針とすることが報告された。
- ・医療技術評価報告書の依頼について進捗状況が報告され、7 月上旬に厚生労働省へ報告書提出予定であることが報告された。
- ・外保連各委員会からの報告がなされた。
- ・2025 年 2 月 6 日 web で開催された日本小児期外科系関連学会協議会について報告された。
- ・日本小児期外科系関連学会協議会の事務局が杏林大学浮山先生に変更となることが報告された。
- ・診療報酬改定要望について報告された。
- ・日本小児医療保健協議会(四者協)について報告された。
- ・日本小児医療保健協議会(四者協)合同委員会について報告された。

(7) 教育委員会（内田担当理事）

内田担当理事より資料に基づき報告された。

- ・第 19 回小児内視鏡外科手術セミナーについて報告された。
- ・2026 年 2 月 1 日（日）に第 41 回卒後教育セミナー・第 20 回小児内視鏡外科手術セミナーを開催する予定であることが報告された。
- ・第 3 回サマースクールを 2025 年 8 月 30 日（土）名古屋大学でドライボックスシミュレーターを用いて開催する予定であることが報告された。
- ・教育委員会から提案された施設リスト・キャリアパスに関するホームページ改訂進捗状況について報告された。
- ・日本外科学会プラットフォームを利用した e ラーニングシステム参加について、卒後教育セミナーの講義内容を e ラーニングの形にして専門医取得の必須条件とする検討事項

に向けて、教育委員会では適切な講義ビデオの準備を進めていくことが報告された。

(8) 悪性腫瘍委員会（平林担当理事）

平林担当理事より、今回特に審議事項がない旨が述べられた。

(9) 学術・先進医療検討委員会（米田担当理事）

米田担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・小児外科領域でのエビデンス：systematic review 論文の紹介について 2024 年度から半期ずつ 2 回に分けてレビューすることが報告された。2024 年 7 月 1 日から 12 月 31 日までに pediatric surgery 領域での systematic review 論文で Impact Factor が Pediatric Surgery International, European Journal of Pediatric Surgery 以上の論文を PubMed 検索し、24 論文が選定され、委員による要約コンテンツを作成していることが報告された。結果は理事会に諮ったのち、HP に掲載されている 2015 年からの 376 編に追加して 400 編として掲載することが報告された。

(10) 倫理・医療安全管理委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・令和 7 年 3 月 10 日に開催された一般社団法人日本医療安全調査機構の令和 6 年度協力学会説明会の資料が提示され、報告された。

(11) データベース委員会（田中秀明担当理事）

田中担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・2023 年 9 月 26 日の第 3 回理事会で審議された、2021 年度に承認された NCD 研究（外科複数領域「成人手術の Learning curve から推定される小児外科医の症例経験数の充足割合の検討」）の修正申請の審議結果を申請者に報告したところ、研究チーム内で検討するとの返答があったが、2025 年 2 月 2 日に「修正して研究を実施することは困難」と判断し申請を取り下げると連絡があったことが報告された。
- ・2023 年 9 月に提出され、2024 年 6 月 24 日の理事会にて承認された「先天性胆道拡張症におけるロボット支援手術の有用性及び安全性評価」の研究の修正申請は 2025 年 1 月 28 日の理事会にて条件付き承認された。DB 委員会の意見とともに 2 月 5 日に申請者に審議結果を回答したことが報告された。
- ・2024 年度 NCD-P 後向研究で承認された京都大学の研究に対して修正申請が提出された。データベース委員会にて審議し、極めて軽微な変更であり特に問題がないとの結果を得た。委員長と担当理事で協議して申請者に承認の旨を 3 月 10 日に回答したことが報告された。
- ・2024 年度「NCD データを利用した複数領域にまたがる新規研究課題」には、当学会より「先天性胆道拡張症における成人および小児症例の胆道再建法の検討」、日本心臓血管外科学会より「大動脈壁浸潤を伴う肺・縦隔腫瘍における、胸部ステントグラフトを用いた合併切除の成績及び有用性の検討」の 2 題が採択され、日本外科学会から各学会のデータ利用許可手続きを進めているとの連絡があったことが報告された。

(12) 小児救急検討委員会（平林担当理事）

平林担当理事より、口頭で外科系小児救急患者受け入れ状況のアンケートについて報告された。

(13) トランジション検討委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・「外科疾患を有する児の成人期移行についてのガイドブック第2版」「移行期支援のための患者サマリー（2022年版）」使用とトランジション実態に関するアンケート調査の内容についてメール審議によるブラッシュアップを行い、最終案を決定したことが報告された。

(14) ワーク・ライフ・バランス検討委員会（尾花担当理事）

尾花担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・第62回日本小児外科学会学術集会において、委員会主催のパネルディスカッション「徹底討論第2弾！小児病院と市中病院の働き方改革の現状 ～地方と都市の違いを斬る～」を開催することが報告された。
- ・小児外科医の求人広告の掲載や運用について報告された。
- ・働き方改革施行後の実態調査のため会員向けアンケートが最終チェックの段階にきていることが報告された。

(15) 規約委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、今回特に審議事項がない旨が述べられた。

(16) 研究倫理委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、「第62回日本小児外科学会学術集会（令和7年開催）の演題応募における倫理的配慮と手続きの審査に関する報告書」が提示され、審査について報告された。

(17) NCD 連絡委員会（渕本担当理事）

渕本担当理事より、今回特に審議事項がない旨が述べられた。

家入副理事長より口頭で、アドホックについて、消化器外科にならってリモートオーディットにすることを検討していることが報告された。

(18) ガイドライン委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・小児胃軸捻転症診療ガイドラインについて、現在校正中であり、終了次第、小児外科学会HPで公開予定であることが報告された。
- ・腸回転異常症診療ガイドラインについて、ダイジェスト版英文化を伊勢一哉先生が作成中であることが報告された。また、公開後のアンケート結果について和文論文作成中であり、本学会誌に投稿予定であることが報告された。

- ・先天性食道閉鎖症診療ガイドラインについて、2024 年 12 月 WG 内で重要臨床課題を決定したことが報告された。第 61 回日本周産期・新生児医学会学術集会で開催されるシンポジウム「専門外でも知っておきたい診療ガイドライン・指針」の指定演者として文野委員長が途中経過を発表予定であることが報告された。
- ・診療ガイドライン作成協力について、先天性高インスリン血症診療ガイドライン改訂の作成グループに加治担当理事、文野委員長、住田副委員長が参加することが報告された。
- ・学会 HP 掲載診療ガイドラインの更新を 2025 年 5 月に行う予定であることが報告された。

(19) 利益相反委員会（米田担当理事）

米田担当理事より、口頭で、COI 自己申告書の回答について協力が求められた。

(20) 医薬品・医療機器検討委員会（内田担当理事）

内田担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・安定確保医薬品の見直しの係る候補成分の提案について、2020 年 6 月に小児外科学会保険診療委員会で 10 成分を選出し厚労省に提出したが、治療ガイドラインの改訂などを受けて 2025 年 1 月に再調査の依頼があり、審議した結果、1 月 18 日の理事会で要望が寄せられたオンダンセトロンとセボフルレンを追加希望したことが報告された。
- ・AMED 医薬品等規制調和・評価研究事業「小児医薬品の早期実用化に資するレギュラトリーサイエンス研究」（中村班）への参加について、2024 年度「全体班会議及び小児関連学会代表委員との情報交換会」（2025 年 1 月 24 日）に古田委員長が web 参加し、小児外科学会として 1 年間行ってきた取り組みを報告したことが報告された。

(21) ロボット支援手術検討委員会（家入副理事長）

家入副理事長より口頭で、レジストリについて委員会で検討する予定であることが報告された。また、多くのプラットフォームがあるため、確認することが報告された。

尾花理事より、診療報酬算定の時にロボットで手術したことがわかるようにしてほしいとの意見が寄せられた。

(22) 総合調整委員会（家入委員長）

家入委員長より、資料に基づき、2 月 18 日に開催された委員会について報告された。

- ・教育委員会より、①卒後教育セミナーを専門医取得に必須とする、② E ラーニングを専門医制度更新に必須とすることについて提案があり、議論した結果、将来的に、生涯教育としての卒後教育セミナー（オンデマンド受講）の必須化することに対し、肯定的な意見が多く寄せられた。今後、理事会審議を経て、専門医制度委員会での審議を依頼することとなったことが報告された。
- ・学会による学術集会開催の資金集めについて、会長による資金集めだけでは難しいこともあり、学会主導で恒常的な資金集めを行う体制が提案された。国内外の他学会での動向を踏まえ、更に検討する方針となり、継続審議となったことが報告された。

- ・働き方改革に対する学会の取り組みについて、小児外科特有の働き方改革を行っていく上で、アンケートなどを行っていくことや、本学会として本件に関して主導することは困難なので、企画で議論を牽引していくこと、また、外科学会や他のサブスペシャリティと足並みを揃えて国に対して常に発信していく必要性などが再確認された。以上を踏まえて、改めて小野理事長より、現状を把握することにより小児外科医特有の問題点を共有した上で、内外に示すためにも本件に関する本学会としての方向性を示してほしい旨、発言があり、継続審議となったことが報告された。
- ・新専門医制度への対応について、機構からのアクションがあるまでは、当学会としては粛々と小児外科専門医制度を継続していく方向性であることなどが再確認され、継続審議となったことが報告された。
- ・U45WGの今後の活動方針について、花木祥二郎先生から以下が報告された。
 - メンバー数が最終的に41名となった。
 - メンバーの名簿は学会HPに掲載することとなった。
 - 学会企画として、U45からの発表と、他学会のU45類似グループからの登壇者とのパネルディスカッションを行うことが報告された。
 - U45による研究費獲得について質問がなされ、研究費は基本的には施設に紐づけられる点が回答された。
 - 若手小児外科医のためのOpenなリサーチカンファレンス開催が提案された。開催に問題はないと判断され、申請書が家入委員長経由で理事会に提出されることとなった。
 - 小児外科領域におけるリサーチに関するアンケート調査の英文論文が提示された。共著者として理事長、副理事長を入れるかどうか審議され、Acknowledgmentが適切ということになった。
- ・学術集会のあり方について、次期理事会において秋の総会＋外科学会での春季シンポジウム開催の方向で調整し、外科学会と交渉していくこととなり、継続審議となったことが報告された。
- ・小児外科専門医の適正配置について（地域ブロック制についての検討）、理事会としての「最低限の方向性」を打ち出すための議論がなされたが、学会が介入することができる具体的な方策を打ち出すことは極めて困難であった。High volume centerでの効率的な専門医育成を学会がサポートする体制が求められていることが確認され、WLB委員会でリクルート情報揭示の作業が進行中であることが共有された。継続審議となったことが報告された。
- ・小児外科関連研究会の今後のあり方について、アンケートの結果、研究会同士の合併は難しいが合同開催は可能との意見が大部分であったため、代表幹事へアンケート結果を報告し、今後の具体的な方向性について話し合うためのKick off MTG（早ければ2025年の学術総会での開催）を行う旨、連絡することとなり、継続審議となったことが報告された。
- ・海外での研修システム・海外からの研修の受け入れについて、International fellowや途上国支援、特定の外科医局への人材紹介を学会として行うかどうかを今後審議していくことや、外科学会が英国外科学会と行っているプログラムについて情報収集することな

どが再確認され、継続審議となったことが報告された。

- JSPS Research Grant について、U45 から研究費グラントについて提案がなされており、本件に関して大筋で合意が得られたが、金額、審査方式、本グラントのターゲット、臨床・基礎研究の分野分け、Donation など、議論すべき点が多く残されている。大枠として、運営・採点に関しては外科学会の仕組みを参考に学術先進医療検討委員会が整え、審査の最終決定は理事会が行う方針となり、継続審議となったことが報告された。

(23) 日本外科学会理事会（田尻前々理事長）

田尻前々理事長より、口頭でドイツ小児外科学会に参加することが報告された。

(24) 四者協関連（小野理事長）

小野理事長より、口頭で、当学会の役員交代は 6 月に行われるので、その後役員の変更に
ついて報告する予定であることが述べられた。

(25) 選挙管理委員会（照井選挙管理委員長）

照井選挙管理委員長より、資料に基づき、報告された。

- 2025 年 2 月 27 日に開催された第 2 回役員選挙管理委員会について報告された。
- 2025 年度役員選挙のスケジュールが報告された。

8) 2024 年度事業報告・2025 年度事業計画について（照井庶務委員長）

照井庶務委員長より資料に基づき、2024 年度事業報告・2025 年度事業計画の原案が提示
された。

9) 名誉会員・特別会員推戴について（小野理事長）

審議の結果、以下の 5 名を本年度推戴候補者として内諾を確認の後、社員総会に諮るこ
ととした。

名誉会員推戴候補者：臼井 規朗先生

名誉会員推戴候補者：奥山 宏臣先生

名誉会員推戴候補者：越永 従道先生

名誉会員推戴候補者：田中 潔先生

特別会員推戴候補者：廣瀬 龍一郎先生

10) 日本形成外科学会からの要望書（小野理事長）

小野理事長より、資料に基づき報告され、承認された。

- 日本形成外科学会から令和 8 年度診療報酬改定における静脈奇形に対する硬化療法の保
険収載に向けた協力依頼があり、静脈奇形硬化療法の手技および疾患に精通している先
生の推薦依頼があったことが報告され、藤野明浩先生に内諾を得た上で推薦することが
承認された。

1. 報告事項

1) 理事長報告（小野理事長）

- (1) 日本外科学会からの通信文「第 126 回日本外科学会定期学術集会プログラムについて」を受領した。
- (2) 日本栄養治療学会からの通信文「理事長就任の挨拶」を受領した。
- (3) 日本助産師会からの通信文「会長退任・就任の挨拶」を受領した。
- (4) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.417」を受領した。
- (5) 日本の医療の未来を考える会からの寄贈本「集中3月号」を受領した。
- (6) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ！ Vol.209」を受領した。

2) 次回定例理事会日程の確認（小野理事長）

次回定例理事会は令和 7 年 6 月 4 日(水) 11:00～14:30 一橋講堂 1F 特別会議室 101-103 で開催する予定であることが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____